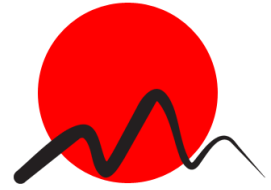


Slovenia Monthly August 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年9月7日



～8月の主なポイント～

- 内政：** 国民議会において、先の総選挙で第2党となったマリヤン・シャレツ・リスト党(LMS)のシャレツ党首(Mr Marjan Šarec)が次期首相に選出。ツェラル現首相は次期外相に指名。
- 外政：** パホル大統領、欧州委による西バルカンへのEU拡大支持を歓迎
スロベニア・マケドニア、合同軍事訓練及び訓練場の使用に関するMOUに署名
- 経済：** スロベニア政府、NLB株式のうち最低でも50%の本年末迄の売却を承認
- 治安：** 対クロアチア国境から流入する移民の数が増加
- 社会：** 自転車ロードレース「ピンクバンク・ツアー2018」でスロベニア人選手が総合優勝

政治

国政選挙特集

●次期首相の選出

17日、国民議会において、先の総選挙で第2党となったマリヤン・シャレツ・リスト党(LMS)のシャレツ党首(Mr Marjan Šarec)が次期首相に選出された。シャレツ次期首相は、投票前のスピーチにおいて、新政権の優先事項として、医療・年金改革、先端技術投資、経済対策強化、教育投資、インフラ整備、難民対策、国境問題への対応等を掲げ、また、投票結果を受けて、予想(連立与党には参加せず、同連立与党と協力協定を視野にシャレツ氏の支持に回った野党「左派」の9票を含む52票)よりも多い55票の支持を得たことに言及し、「本日の投票で誰が自分に投票してくれたかに拘わらず、自分は皆の利益のために尽力していく」と抱負を述べた。



シャレツ次期首相：1977年12月2日生まれ(40歳)。2001年、リュブリャナ大学演劇ラジオ映画テレビ・アカデミー一部卒業。俳優(コメディアン、2001～10年)、国営テレビ局記者及び編集者(2005～10年)を経て、2010～2018年、カムニク市長として二期務めた。2017年の大統領選挙で現役のパホル大統領を相手に52.94%対47.06%と善戦。2018年6月に、議会選挙に「マリヤン・シャレツ・リスト」党(LMS、中道左派)から出馬して当選。俳優時代は、政治家の物まねや風刺をするコメディアンとして有名になり、市長時代は、道路及び橋梁の整備・修繕、下水システムの向上等のインフラ整備、教育施設の拡大や観光促進等を実施したとして地元の評価を受けている。既婚、2人の娘がいる。趣味は消防活動、園芸、歴史、クラシックカー等。

●国民議会議長の選出

23日、国民議会にて、トニン議長(Mr Matej Tonin、新スロベニア・イニシアティブ、中道右派)が解任され、デヤン・ジダン社会民主党(Mr Dejan Židan、SD)党首が、賛成49票、反対8票及び無効票3票で選出された。選出されたジダン新議長は、議会におけるスピーチにて、自身への称賛及び批判のいずれにも感謝するとして、

議会議員に対して、今後お互いに尊重しながら建設的な批判を行い、政治文化を一層高める努力をするよう呼びかけた。

ジダン国民議会議長: 1967年10月16日生まれ(50歳)。1997年、リュブリャナ大学獣医学部修士号取得。スロベニア動物衛生センター・ムルスカ・ソボタ地区獣医及び調整官(1995年~2001年)、国立獣医研究所ムルスカ・ソボタ地区長(2001~03年)、食品加工会社役員及びCEO(2003~10年)等を経て、2010年、農林・食糧大臣に就任。2011年、国民議会議員(社会民主党(SD)、中道左派)として当選後は、副首相兼農業・環境大臣(2013~14年)、副首相兼農林食糧大臣(2014~18年)を歴任。2014年5月よりSD党首を務める。既婚、子供が2人おり、趣味はハイキング、ノルディックウォーキング等。



●中道左派5政党、連立合意文書及び「左派」との協力協定に正式調印

29日、中道左派のマリヤン・シャレツ・リスト党(LMS)、社会民主党、現代中央党、アレンカ・ブラトゥシェク同盟及び年金者党の5政党は、連立合意文書及び野党「左派」との協力協定に正式調印した。シャレツ次期首相は、厳しい連立交渉を経て今般2つの合意文書の調印につなげられたことは喜ばしいと述べ、連立パートナーの共通項を見いだそうとする建設的な姿勢に対して感謝の意を表明した。また、連立政党の各代表も今後の実りある協力に期待を表明した。

●閣僚候補リストの提出

30日、シャレツ次期首相は、新政権の閣僚候補リストを国民議会に提出した。同16名の閣僚候補には、元首相が2名、元大臣が4名、元副大臣が3名含まれ、また、4名が女性である。同リストは、9月4日から6日にかけて議会の各委員会にてヒヤリングを受け、翌週の9月13日に議会承認を得られれば、同日に新政権が正式発足する見通しである。

閣僚候補者:

- (1) 外務大臣: ミロ・ツェラル(Dr Miro Cerar, 現代中央党(SMC)党首)(前首相)
- (2) 国防大臣: カルル・エリヤヴェツ(Mr Karl Erjavec, 年金者党(DeSUS)党首)(前外務大臣)
- (3) インフラ大臣: アレンカ・ブラトゥシェク(Ms Alenka Bratušek, アレンカ・ブラトゥシェク同盟(SAB)党首)(元首相)
- (4) 内務大臣: ボシュティヤン・ポクルカル(LMS)(Mr Boštjan Poklukar, クラン地域市民保護防災行政局長)
- (5) 農林食糧大臣: アレクサンドラ・ピヴェツ(DeSUS)(Dr Aleksandra Pivec, 在外スロベニア人担当省副大臣)
- (6) 公共行政大臣: ルディ・メドヴェド(LMS)(Mr Rudi Medved, ザゴリエ・オブ・サビ市行政局長)
- (7) 財務大臣: アンドレイ・ベルトンツェル(LMS)(Dr Andrej Bertonec, スロベニア国家ホールディング(SSH)社取締役(監査))
- (8) 経済開発・技術大臣: ズドラウコ・ポチヴァルシェク(SMC)(Mr Zdravko Počivalšek, 留任)
- (9) 法務大臣: アンドレヤ・カティッチ(SD)(Ms Andreja Katič, 前国防大臣)
- (10) 労働・家族・社会問題・機会均等大臣: クセニヤ・クランプフェル(SMC)(Ms Ksenija Klampfer, 元公共行政省副大臣)
- (11) 保健大臣: サモ・ファキン(LMS)(Mr Samo Fakin, 元スロベニア健康保険機構(ZZZS)理事長)
- (12) 教育・科学・スポーツ大臣: イェルネイ・ピカロ(SD)(Dr Jernej Pikalo, 元教育・科学・スポーツ大臣)
- (13) 文化大臣: デヤン・プレシチェク(SD)(Mr Dejan Prešiček, リュブリャナ音楽バレエ学校校長)
- (14) 環境・空間計画大臣: ユレ・レーベン(SMC)(Mr Jure Leben, 前インフラ省副大臣)
- (15) 開発・戦略事業・結束担当大臣(無任所): マルコ・バンデリ(SAB)(Mr Marko Bandelli, 実業家)
- (16) 在外スロベニア人担当大臣(無任所): ペテル・J・チェスニク(SAB)(Mr Peter J. Česnik, 元航空管制官)

【その他内政】

● 検察が汚職疑惑で15名の医師を起訴【6日】

6日、検察当局は、医師が医療機器メーカーからリベートを受け取っていたとされる事案に関し、関係者15名を起訴した。医療機器メーカーは、機器の購入の見返りとして賄賂を提示し、医師らはオーストリア、ドイツ及びクロアチアにて開設された個人口座に1万～10万ユーロの賄賂を受け取っていたとされており、公金約118万ユーロの損失が推定される。なお、収賄の容疑がかけられている関係者には、リュブリャナ大学病院、マリボル大学病院の複数の医師、リュブリャナ癌研究所等の薬事局長等が含まれる。

● パホル大統領、「プレクムリエ地域統合の日」の前夜祭に出席【16日】

パホル大統領は、スロベニア北東部「プレクムリエ地域統合の日」(17日)の前夜祭に出席し、同式典におけるスピーチにて、「900年以上にわたりハンガリーの支配下にあった同地域を第一次世界大戦後にユーゴスラビア王国へ統合できたことは、スロベニアの独立への一里塚であった」と述べ、先人の知恵を讃え、今日においても国民は、国家主権の価値を認識し、お互いを尊重することが重要であると述べた。

【外政】

● 政府、クロアチアとの国境線画定問題で影響を受けている漁師に補償金を供与【8日】

政府は、スロベニア・クロアチア間の国境線確定問題において、クロアチア側が、国際仲裁裁判所の仲裁裁定を尊重せずにいる中、スロベニア人漁師が、同裁定の下ピラン湾のスロベニア側に属する海域にて限定的な漁しか行えず被害を被っている事態が発生していることを受け、漁師に対する補償金25万5千ユーロの予算を確保した。なお、国民議会は、昨年11月、ピラン湾の漁師に対して、クロアチア側の仲裁裁定不履行による被害を補填するための法令を採択している。

● 米上院にて次期駐スロベニア米国大使の公聴会が開催【17日】

17日、米上院外交委員会においてリンダ・ブランチャード(Lynda Blanchard)次期駐スロベニア大使の公聴会が開催され、次期大使は「スロベニアは米国の信頼出来るパートナー」であり、「バルカン地域における民主的改革の履行のリーダーである」と述べた。経済分野については、スロベニアの企業の50%以上が国有企業であり、政府が近年民営化に力を入れていることにも鑑み、米国企業の参入にとりよい機会であると強調した。

ブランチャード次期大使は、貧困撲滅及び子供の生

活環境改善に向けた独創的な解決策を提唱する開発基金「100X」の共同創設者であり、アフリカ、アジア及び南米等で、孤児院、食品会社に対する支援や、持続可能な開発にかかるプログラムの運営に関与してきた。



(写真：パホル大統領公式ツイッター)

● パホル大統領、EUによる西バルカンへの拡大支持を歓迎【26日】

26日、オーストリアのアルプバッハで開催された「European Forum Alpbach」に出席したパホル大統領は、欧州委が対西バルカン戦略を採択し、EU拡大を支持すると共に、同戦略の中で、地域諸国が二国間問題を解決した場合にのみ、EU加盟への門戸を開放することの方針を定めたことを歓迎した。この観点から、同大統領は、EUが、クロアチアに対し、国境線画定にかかる仲裁裁定の遵守を要求しなかったことは一貫性に欠けているとして警告した。今後の課題として同大統領は、マケドニアの国名問題の解決、ベオグラード・プリシュティナ間の対話を挙げ、これら課題は、ボスニア・ヘルツェゴビナ情勢にも強い影響を与えるであろうと述べた。

● カティッチ国防大臣のマケドニア訪問【25日】

29日、マケドニアを訪問したカティッチ国防大臣は、ザイエフ首相及びシェケリンスカ国防大臣と会談を行い、両者に対し、スロベニアによるマケドニアのEU及びNATO加盟への支持を表明した。また、同大臣は、マケドニアの加盟に向けた努力を評価しつつも、加盟条件である改革の実施を要請した。更に、同大臣は、スコピエのNATO連絡事務所は引き続き、スロベニア政府が運営し、在マケドニア・スロベニア大使館はNATOのコンタクト大使館としての役割を果たしていくことになることと述べた。今回の訪問において、両国防相は、合同軍事訓練及び訓練場の使用に関するMOUに署名した。

発見！スロベニア

初登頂から240年を迎えたスロベニアの最高峰トリグラウ山

2018年8月26日、スロベニアの最高峰トリグラウ山(Triglav)の初登頂から240年を祝う式典がボーヒンで催されました。1778年8月26日、ボーヒン出身の炭鉱労働者ルカ・コロシェッツ、マテウジュ・コス、猟師のシュテファン・ロジッチ、及び、医師のロヴレンツ・ヴォロミツターの4名が初登頂に成功しました。



(写真: Apartments Fine Stay)

4名は、8月24日に標高1675メートルのヴェロ・ポリエ山山頂に到達し、同26日に標高2864メートルのトリグラウ山の登頂に成功しました。4名は山頂の岩に4名の名前のイニシャルに加え、神聖ローマ皇帝ヨーゼフ2世、探検のスポンサーであったジガ・ゾイス侯爵等のイニシャルも刻みました。



(写真: 伊藤真司)

トリグラウ山の標高は、アルプスの代表的な山と比較すればそれほど高くはありませんが、トリグラウ山への初登頂が、モンブランより8年前、オーストリア最高峰のグロスグロックナーより22年前、マッターホルンより87年前に成功したことは快挙として賞賛され、スロベニアでは8月26日が「登山の日」に制定されています。

経済

●カラヴァンケ第二トンネル工事業をトルコ企業が落札【3日、22日】

3日、スロベニアとオーストリアを結ぶカラヴァンケ第二トンネルの建設事業の入札でトルコ企業「Cengiz Insaat Sanayi Ve Ticaret」が最低価格である8930万ユーロを提示し、落札した。計画には、3,546メートルのトンネル及びトンネルと既存の高速道路を結ぶ620メートルの道路建設が含まれ、総事業費1億5160万ユーロの内、建設費は1億2150万ユーロが想定されていた。複数のメディアはCengiz社の入札価格はダンピングであるとして非難している。同社は、工期は約5年とされている。

22日、「Cengiz Insaat Sanayi Ve Ticaret」社に対し、スロベニアの「Kolektor CPG」社とボスニア・ヘルツェゴビナの「Euro-Asfalt」社が、不当に安い価格で入札したとして異議申立を行ったため、工事開始が遅延することとなった。事業主体のDARS社は、本件申立につき、まずは社内で再評価を行った上で、異議申立を行った業者がそれでも満足しない場合には、国家再評価委員会において再審査を行うこととなると述べた。



(写真: Slovenske novice)

●政府、新リュブリャナ銀行(NLB)の民営化方針の変更を承認【10日】

欧州委は、政府が保有するNLBの株式のうち、最低でも50%を本年末迄に売却するという政府の方針を承認した。また、同提案によれば、政府が株主総会において決定権を保有するために必要な25%プラス1株についても、2019年末までに売却されることとなる。財務省は、欧州委の今次決定は、NLB民営化という目標を可能とするものとして、歓迎するとの声明を発表した。

トレイルランナー、宮地藤雄のスロベニア紀行

第3回

日本に限らず今年は世界的に酷暑が続いていますが、9月に入ってよいよスポーツの秋が近付いてきます。そこで今日は、リュブリャナで行われるランニング大会を紹介します。まず1つ目が、毎年10月下旬に開催される「リュブリャナマラソン」。フルマラソンはもちろん、ハンドバイクに小さな子供も参加できるファンランなど、街がその日1日ランニング一色に染まります。日本人の参加はほとんどないようですので参加してみるのも面白いかもしれません。そして、東京近郊に比べ涼しくなるのが早く、朝晩は肌寒いくらいでマラソンにはもってこいの気候です。



宮地藤雄(ミヤチフジオ)
2013~18 マウンテンランニング日本代表

スポーツの秋を楽しむ



そして、2つ目に紹介するのが「Tek na Smarna Goro (Smarna Gora Mountain Run)」。市民の憩いの山でもあり、リュブリャナから車で20分ほどにあるシュマルナゴラ山で、毎年10月上旬にマウンテンランニングワールドカップの最終戦が開催されます。僕も度々参戦していますが、各国から選手が集まり、テクニカルなアップダウンを駆け上がり駆け下りたりしながら山頂669m地点を目指して走り抜けます。街から近く、レース中でもハイキングを楽しむ人はたくさんいますが海外からの選手が多数参戦する毎年恒例のイベントとして認知されており、全力で走る選手を力強く応援してくれます。特にフィニッシュ近くはギャラリーが多くとても賑わい、最後の一押しをしてくれます。僕がスロベニアへ度々走りに行く大きな理由の1つに、マウンテンランニングが盛んであることが挙げられます。小さな国ですがスロベニアはスポーツ強国であり、スポーツに対する人々の理解と定着度がとても高い印象です。そして何より、スポーツを通じての交流をとても大切にしている国で、ありがたいことに僕はその恩恵をとっても受けています。その中心になっているのが Tomo Sarf さん。スロベニア・マウンテンランニング協会のリーダーで、マウンテンランニング国際連盟の理事でもあります。アジアではマウンテンランニングが盛んでないため、ヨーロッパでの大会に出場するためにはいろいろな苦労があります。そんな時、彼はアドバイスをくれます。エントリーの仲介や宿探し、交通の確保など挙げればきりがありません。彼のような存在があるからおさら、マウンテンランニングの普及啓発とスロベニアの魅力発信を積極的に頑張ろう、頑張りたい、そんな思いにさせてくれます。最後に9/16(日)アンドラ公国で行われるマウンテンランニング世界選手権に日本代表として出場することとなりました。精一杯走ってきますので応援どうぞよろしくお願いいたします。レースやトレーニングの様子はSNSで発信しているので是非そちらもご覧ください！

●農業フェア「Agra」が開幕【25日】

北東部ゴルニャ・ラドゴニャにおいて第56回「農業・食料フェア(Agra)」が開幕した。今回のフェアは、青年層の農業従事者に焦点を当て、主催者側は近年の農業は経験のみならず、以前にも増してノウハウの習得が重要となってきており、スロベニアの農業の未来のために、青年層の育成に力を入れて行くことを呼びかけた。開会式典において、ジダン国民議会議長(前農林食糧相)は、自然環境と社会情勢は常に変化していることから、青年層の農業従事者の声は益々重要となって来ている旨コメントした。

●中国Hisense社、ヴェレニェ市においてテレビ製造工場を建設【30日】

家電大手ゴレニェ社のポピナツCEOは、同社の親会社となった中国のHisense社が、ゴレニェ社の位置するヴェレニェ市においてテレビ製造工場を建設し、数百人が新規雇用される予定である旨発表した。また、同社長は、Hisense社による買収により、従業員が解雇されるとの噂を一蹴し、殆どの製造ラインはヴェレニェ市に残るのみならず、製造施設の拡張も計画されていると述べた。同社長によれば、建設が予定されているテレビ製造工場では、当面は年間100万台のテレビ製造を計画していると述べた。

●政府、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の管理会社に2000万ユーロを資本注入【30日】

政府は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業を管理・監督する特定目的会社「2TDK」社の設立規定を改定し、2000万ユーロの資本注入を行うことを決定した。なお、スロベニア政府は、本年末迄に、同社に対し、更に1億7900万ユーロの資本注入を実施する計画であり、同社に対する国庫からの資本注入は、合計2億ユーロとなる。

●政府、安川電機に対し、投資インセンティブの追加供与を決定【30日】

政府は、投資インセンティブ向け予算の再分配を行い、現在コチェウイェ市で建設中の安川電機の新工場、及びスロベニア企業4社による新規投資案件に対し、合計1000万ユーロを供与することを閣議決定した。これにより、安川電機は、既に供与を受けた560万ユーロに加え、100万ユーロの追加支援を受けることとなった。

●統計局、2018年前期のGDP成長率は3.8%と発表【30日】

スロベニア統計局は、2018年前期のGDP実質成長率が3.8%(前年同時期比)、季節変動を調整後の成長率は4.3%を記録したと発表した。統計学者のコレ

ニッチ氏によれば、国内需要が2.3%、資本形成が2.9%の成長率が前年同時期と比較するとやや落ち着いており、結果として全体の経済成長率も前年同時期の4.2%を下回った。他方、同氏は、家計消費全体としては1.1%増に留まったが、例えば自動車購入は10%以上の増加となり、耐久消費財の需要は依然として上昇していると指摘。また、本年前期は、輸出、輸入それぞれが9.3%、8.3%増加したため、貿易収支も経済成長率に1.7%ポイント貢献した。

軍事・治安

●国連レバノンPKOに派遣中のスロベニア軍部隊に対する襲撃【4日】

国連レバノン暫定隊(UNIFIL)に所属するスロベニア軍部隊が、定期巡回中に2度にわたり武装集団の襲撃を受け、車両を燃やされた他、ライフル2挺、拳銃3挺が盗まれたことが判明した。パホル大統領は、スロベニア部隊司令官及び事件に巻き込まれた兵士との会話の中で無事にミッションを完了させるよう激励した。スロベニアは、2006年よりUNIFILに参加しており、2015年及び2017年にもアラブ系民兵より襲撃を受けるも死者は出ていない。現在のミッションには、本年5月から15名の兵士が派遣されている。



(写真: The Guardian)

●スロベニアにおけるEU内での難民割り当ての合意の履行状況【16日】

政府は、イタリア及びギリシャに滞留する難民のEU内での割り当てに関する最終報告書につき審議を行った。スロベニアはイタリアから218名、ギリシャから349名の難民受け入れに合意し、2016年3月より受け入れを開始したが、現時点では44.6%しか受け入れていない。他方、政府は、これはイタリア及びギリシャ政府が必要な書類の提出を怠ったからであるとして、スロベニアはEUとの約束を完全に履行しているとの見方を示した。なお、難民の国籍は、イタリアから受け

入れた81名のうち、71名がエリトリア人、3名がシリア人、1名がイエメン人、ギリシャから受け入れた172名のうち、149名がシリア人、17名がイラク人、6名が無国籍となっている。

●対クロアチア国境での不法移民の増加【18～19日】

18日から19日の週末に、スロベニア警察は、対クロアチア国境において95名の不法移民の身柄を拘束した。そのうち、42名が南西部のコペル周辺、53名が南東部のノヴォ・メスト周辺地域で身柄を拘束され、8月前半にスロベニアに不法入国し、身柄を拘束された移民の数は233名となった。難民の出身国は、パキスタン、アフガニスタン、シリア、アルジェリア、イラン等が大多数である。

●人権オンブズマン、潜在的庇護申請者に対する警察の対応の不備を指摘【22日】

人権オンブズマン事務所は、庇護申請を希望する外国人がスロベニア警察により入国を拒否されているとのメディア報道を受け調査を行い、警察側の移民への対応は理想的ではなかった旨の報告書を発表した。同報告書は、警察当局は、移民が庇護申請を行う可能性があるかを確認し、申請を事前に拒否することがないように、移民の個人的な事情に配慮すべきであると指摘している。同報告書は、オンブズマン事務所が6月中旬に実施した、対クロアチア国境のチュルノメリ及びメトリカ警察署における査察結果に基づき策定されたものである。

社会・文化・スポーツ

●男子体操欧州選手権でスロベニア人選手が銀【12日】

スコットランドのグラスゴーにて開催された男子体操欧州選手権にて、Sašo Bertonec選手が、同点をマークしたクロアチアのRobert Seligman選手とともに、鞍馬で銀メダルを獲得した。同選手にとって、2010年及び2014年の銀メダルに続き今回で欧州選手権における3回目のメダル獲得となる。なお、鞍馬種目の優勝はアイルランドのRhys McClenaghan選手だった。

発見！スロベニア 「ANIME」フェア2018

8月12日、沿岸部イゾラ市にて、第6回「ANIME」フェアが開催されました。同フェアは、日本の漫画・アニメを中心としたポップカルチャー同好会「Animov」及び「Magnet」（マンスリー7月号掲載）が主催するイベントで、今年も漫画・イラスト及びコスプレ体験のブース等が設置され、またステージでは、太鼓パフォーマンス、アニソンコンサート等が行われ、朝早から夜遅くまで多くのアニメファンで賑わいました。

主催者によると、このイベントにおいて「ANIME」は



二つの意味があります。一つは、日本語のアニメーション動画を意味する「アニメ」に由来し、もう一つは、イタリア語の「魂」という意味があり、本イベントは、漫画・アニメ愛好家

が集まるだけでなく、その面白さをより多くの人々に知ってもらう機会を提供することを目的としています。

そのため、本イベントは、イゾラ市の中心地にある公園で開催されています。同会場内では、スロベニア人作家オリジナルのイラストや小物、メロンパン等も手軽な価格で提供しています。コスプレをした若者が行き交う風景は、普段のイゾラ市とは違い、華やかな彩を添えていました。

また、スロベニアには47kmというほんのわずかな海岸線しかありませんが、その中でも、イゾラ市は、ポルトロージュ市と並んで、海水浴が楽しめる町として地元の人々にも親しまれています。ぜひ一度、海とアニメの世界を楽しみにイゾラを訪れてみてはいかがでしょうか。



「ANIME」フェア HP: <https://animov.si/en/home2>
イゾラ観光 HP: <http://www.visitizola.com/en/home/>

日・スロベニア関係

ガブロヴェツ・スロベニアオリンピック委員会委員長に 対する外務大臣表彰 表彰状授与式の開催

8月28日(火)、大使公邸において、平成30年度外務大臣表彰を受賞されたボグダン・ガブロヴェツ(Mr Bogdan Gabrovec)スロベニアオリンピック委員会委員長の表彰状授与式及びレセプションが執り行われました。

同授与式には、福田大使、ソドウルジニク(Mr Janez Soderznik)スロベニア・オリンピック委員会副委員長、ラザル(Mr Damjan Lazar)スロベニア・パラリンピック委員会委員長、ミロスラウ・ツェラル(Mr Miroslav Cerar)オリンピック委員会理事(1964年東京オリンピック競技大会鞍馬金メダリスト)、ムシッチ(Mr Darko Music)スロベニア柔道連盟会長、オチュコ(Mr Franc Ocko)スロベニア柔道連盟事務局長ほか、スロベニア・オリンピック委員会関係者の皆様、ガブロヴェツ委員長のご家族が同席されました。



(写真: 在スロベニア日本大使館)

ガブロヴェツ・スロベニアオリンピック委員長は、故郷の地域に初めての柔道クラブを設立し、20年にわたり柔道を指導されました。その後、20年間、スロベニア柔道連盟会長として、また、武道連盟会長も兼務しつつ、柔道雑誌の創刊、国際大会の開催、選手育成等を積極的に行い、柔道を含めた武道の普及及び日本との交流強化に尽力し、対日理解・友好親善の促進に多大な貢献をなされました。スロベニア・オリンピック委員長に就任して以降は、両国五輪委員会による協定締結を牽引する等、広くスポーツ分野において日本との友好親善関係の促進にも大きく貢献されました。

●自転車「ピンクバンク・ツアー2018」にてスロベニア 人選手が総合優勝【19日】

国際自動車競技連合(UCI)プロツアーのロードレースの一つとしてベルギー及びオランダで開催された「ピンクバンク・ツアー2018」にて、スロベニアのモホリッチ(Matej Mohorič)が、総合優勝を果たした。記録は、25時間13分01秒で、2位のマシューズ(豪)と5秒の僅差での勝利だった。なお、もう一人のスロベニア人ポランツ(Jan Polanc)は12位となった。

●ボルダリング世界大会でスロベニア人が優勝、日本 人選手と競い合う【18日】

ミュンヘンで開催されたボルダリング・ワールドカップ最終戦にて、スロベニア人選手3名が表彰台に上がった。女子ではガンブレット(Janja Garnbret)が優勝、日本の野中生萌は2位、野口啓代は3位。年間ランキングでは、野中選手が優勝、続いて野口選手が2位、ガンブレット選手は4位となった。

男子では、ヴェゾニク(Gregor Vezonik)が優勝、クルーダー(Jernej Kruder)が2位、日本の緒方良行選手と藤脇祐二が、4位、5位に入賞。年間ランキングでは、クルーダー選手が優勝、日本の檜崎智亜(ならさきともあ)選手が2位、杉本玲選手が3位となった。



(写真: WE Expedition twitter)

●インド人女性パイロットがスロベニアの飛行機で世界 一周飛行に挑戦【23日】

インド人の女性パイロット2名、Keithair Misquitta と Aaroni Pandit が、ピピストレル社の航空機で世界一周飛行を開始し、23日、同社工場があるアイドフシュチナに着陸した。女性クルーのみで世界一周を行うのは初めての試みであり、2人はパキスタン、イラン、ブルガリア、セルビアを経由して、同社に立ち寄り、機体の定期点検を行った。その後は、大西洋、北米、ベーリング海、中国を経由して、インドに帰還する予定となっている。二人は、女性の社会進出及び航空分野での奨学金募集のために今回の飛行を計画した。

小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第11回 「シュタイヤ(Steyer)」

シュタイヤ (Steyer)は、スロベニア北東部、オーストリアとの国境に接するアパチェ市(Apače)村のプリトヴィツァ(Plitvica)に所在し、16ヘクタールのブドウ畑を有しています。同ワイナリーは、1993年に創業した比較的新しいワイナリーですが、特にゲヴェルトトラミネール(Gewürztraminer)に定評があり、英国の専門誌「Decanter」や、世界各地のワイン品評会において極めて高い評価を得てきています。オーナーのダニーロ・シュタイヤー氏は、世界でも注目を集めるゲヴェルトトラミネールの巨匠として知られるようになりました。同ワイナリーが位置するアパチェ村はムラ川沿いに位置し、比較的温暖なパンノニア平原にありながらも、冷涼なアルプスからの風の影響で、昼夜の寒暖の差が激しく、ブドウの栽培に適しています。



(写真：Steyer Winery)

シュタイヤの代表的なワインは次の通りです(協力：ZARIA社ソムリエ 岩井氏)。

①ALPEN WHITE STEYER 2015

品種：シャルドネ、ソーヴィニヨンブラン、ラニーナ、リースリング、リースリングイタリコ、ピノグリ、ピノブラン、ゲヴェルトトラミネール(8種類)

一つの畑の区画に様々な品種をランダムに植え、出来の良い葡萄のみを収穫するので、ヴィンテージの差が非常に分かりやすいワインです。葡萄の個性を最大限に発揮させる為、樽熟成はせず全てステンレスタンクで発酵、熟成をします。口当たりは滑らかで優しい果実味が広がり、その後にキレのある酸味、ほのかな塩味、ビターな風味を感じる事の出来るとても複雑で珍しいワインです。



(写真：Steyer Winery)

②STEYER TRAMINEC 2012

品種：ゲヴェルトトラミネール種

フランス東部のアルザス地方の代表品種の白ワイン用ブドウ品種であり、オーストリア、イタリア等で栽培されていますが、スロベニアも近年、良質なワインを製造する地域として知られてきました。年間雨量が非常に少なく、昼と夜の気温差が非常に激しいこの地方は、酸味、糖度ともに高く高品質な葡萄が育ちます。状態の良い葡萄のみを収穫するので雑味が少なくライチのようなフルーティーで滑らかなワインに仕上がっています。



(写真：Steyer Winery)

③STEYER SAUVIGNON 2014

品種：ソーヴィニヨンブラン種

ソーヴィニヨンブランの特徴でもあるフレッシュな香りを最大限に引き出すために、熟成中にフレッシュな葡萄と一緒に漬け込んで3ヶ月熟成させます。生き生きとしたシャープな酸味とキレのある余韻。葡萄本来の香りが楽しめるワインです。

以上の3種類は日本における総代理店である(株)ZARIAから購入可能です。

ZARIA(日本総代理店)：<http://www.zaria-jpn.com/>

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、次のメールアドレスにご連絡ください。info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できません(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●「ゴルゴ13×外務省 海外安全対策マニュアル(動画版)」

外務省では、2016年7月のダッカ襲撃テロ事件を受け、2017年3月、「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を政策し、外務省海外安全ホームページに掲載して参りましたが、この度、幅広い層にも安全対策に対する意識を高め、理解を深めてもらうため、同マニュアルを動画化しました。外務省海外安全ホームページ上に毎週1話ずつ、全13話が掲載される予定です。

(詳細は、http://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html)

【広報文化班からのお知らせ】

●RTVスロベニアにて日本番組放映中！

・Fascinating Japan! Fascinating Iwate! (夢・見る・ピノキオ)：

- 日本の様々な自然・文化・観光・食を美しい映像とともに紹介する番組

- 毎週月曜日～木曜日19：30頃から ※開始時間は日によって異なります

- チャンネル：TV Slovenija 2

詳しくは <http://4d.rtv slo.si/program> をご覧下さい。

●「ジャパン・アフタヌーン」開催！

スロベニア中南部のロガテツ市にて、日本文化紹介イベント「ジャパン・アフタヌーン」が開催されます。華道、書道、折り紙、武道、太鼓パフォーマンス等、多くのプログラムが用意されており、和食や日本酒も提供される予定です。ぜひ皆様お誘い合わせの上、お出かけになってみてはいかがでしょうか。

-会場：ロガテツ体育館 Športna dvorana Logatec (Šolska pot 4/a, 1370 Logatec)

-日時：9月30日(日)午後2時～6時

-入場料：無料

-共催：文化団体「Novi oder」及び合気道クラブ・ロガテツ、後援／協力：ロガテツ市、在スロベニア日本国大使館